

編集後記

胃のX線診断では、立位充満像における変形の読みがいかに大事であるかということは、古くから多くの学者により強調されてきたところがあります。本号では、あえてその変形を取り上げたわけですが、それには、変形にも色々の要素があるので、それを整理してみることに、現在の極めて進歩したX線診断学のレベルで、この変形の意義ないし価値を再検討してみようという二つの目的があったわけです。そういう気持ちで本号の綜説を読んでいただけますと、変形の意味するもの、更にそのとらえ方、読み方について得るところが大きいと思います。さらに座談会では、この問題について多年熱心に分析研究された方々が自ら築きあげた理論と豊富な体験から、自由に発言したり、珍しい症例を提示しており、これまた、読者を飽かせないことでしょう。

技術解説“二重造影の手ほどき”は、仕事にきびしいこの筆者が、ややもすると安易に流れ勝ちな二重造影の操作に対して、決して単純なものでないことを美しい写真の実例を示しながら、くりかえし警告しているわけで、十二分に味わうべき名手ほどきといえましょう。また、症例は毎号のことながら、たかが一つの胃袋の中にというと、叱られるかもしれないが、よくもこれだけ千変万化、つぎつぎに教えられ、考えさせられる症例があるものだと感心します。本号もまた、読者諸氏の明日の診療、研究のための新らしく貴重な糧を与えることと思います。

<岡 部 治 弥>

<編集> 早期胃癌研究会